

令和6年度版『小学 しよしゃ 二年』年間学習指導計画・評価計画資料(案) 「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 (2時間)	1	表紙裏 ①・1	もっと もっと、書きたいね！書いて、つたえたいね！	○書写学習を通じ、文字や書写学習に対する関心を高めることができる。	○1年時の書写学習を振り返る。 ○水書用筆の使い方や練習方法を確認する。 ○教科書の写真を見て、書写で学習することは、どのような場面に生かせるのか考える。	アイウ	B ：校内にいる文字が読めるようになっている。 書写で学習したことを理解して書いている。 A ：校内にいるほとんどの文字が読めるようになっている。 書写で学習したことをよく理解して書いている。 支援 ：校内の文字をあらかじめ写真に撮影し、教室の電子黒板に投影し、児童の理解を促す。	B ：書写で文字の書き方について学習したことを振り返り、考えている。 A ：書写で文字の書き方について学習したことを振り返り、考えている。 支援 ：水書用筆の動画を活用し、水書用筆の使い方や練習方法を思い出せるようにする。	B ：1年生で学んだことを生かして、文字や書写学習に対する関心を高めている。 A ：1年生で学んだことを生かして、文字や書写学習に対して常に意欲的に学ぼうとしている。 支援 ：書写の授業以外でも、気をつけるように声がけをする。
	1	2～11	もくじ 二年生で学しゅうすること 1 はじめの学しゅう ①文字を書くしせい ②えんぴつのもち方 ③学しゅうのすすめ方 ④しよしゃの体そう	○1年生の書写学習で身につけたよい姿勢・鉛筆の持ち方、学習の進め方を確認することができる。	○「よい しせいの 合いことば」「えんぴつの もち方の 合いことば」の唱え歌で姿勢と持ち方を確認する。 ○教科書を見て「学しゅうのすすめ方」を理解する。 ○「しよしゃの 体そう」に袋文字で例示されている文字を空書したり、水書用紙に書いてみたりする。 ○よい姿勢と鉛筆の持ち方で、硬筆で例示されている文字を練習する。	アイウ	B ：よい姿勢・鉛筆の持ち方がわかっている。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で、点画の書き方を理解して書いている。 学習の進め方を理解している。 A ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことを理解している。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で、点画の書き方をよく理解して書いている。 学習の進め方を、よく理解している。 支援 ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促し、ポイントを具体的に説明する。 点画の書き方について、「すうっ」「びたっ」などの声がけをしながら一緒に運筆の動作をする。 学習の進め方を常に確認できるように、各手順を黒板に貼っておく。	B ：よい姿勢・鉛筆の持ち方について考えている。 点画の書き方について運筆方法を考えている。 学習の進め方について、流れを考えている。 A ：自分の姿勢・鉛筆の持ち方の良しあしを考えている。 点画の書き方について、運筆方法をよく考えている。 学習の進め方について、流れをよく考えている。 支援 ：どこを正すと姿勢・鉛筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。 止めるところ、筆圧をかけるところなどに焦点化して説明する。 なぜ試し書きをするのか具体的に説明する。	B ：ふだんの書く場面でも、よい姿勢やよい持ち方で書こうとする意識をもっている。 他の文字を書く場面でも、点画の書き方に気をつけて書く意識をもっている。 A ：常に、よい姿勢・鉛筆の持ち方で書こうとする意識をもっている。 ふだんの書く場面でも、点画の書き方に気をつけて書く意識をもっている。 支援 ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことができるように意識づける。 書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。
5月 (3時間)	3	12・13	2 かたかなの学しゅう 画の方こう	○片仮名の画の方向の違いを理解することができる。 ○片仮名の画の方向の違いに気をつけて、正しく書くことができる。 ○促音、長音、濁音、半濁音の書き方と書く位置を確かめて書くことができる。	○『マ』『ア』『ワ』『ク』『ソ』『ツ』『ン』『シ』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、「画の方向」や「はらいの方向」の違いを話し合う。 ○「点」や「はらい」の方向の違いに気をつけて、鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとも書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○『ス』『ヌ』と『コ』『ユ』のを比べて、「画の接し方」の違いを話し合う。 ○促音・拗音を書く位置や、音引・濁点・半濁点の書き方を確かめる。 ○片仮名で書く言葉を探して、画の方向に気をつけて書く。	アイウ	B ：「はらい」の方向について理解している。 「はらい」の方向に気をつけて書いている。 A ：「はらい」の方向の違いを、よく理解している。 支援 ：自分が書きにくい文字について、正しい書き方と比べてみるができるようにする。	B ：払う方向の違いについて考えている。 A ：払う方向の違いについて、よく考えている。 支援 ：教科書のイラストなどを使って、払う方向の違いが確かめられるようにする。	B ：他の文字でも、片仮名の字形に気をつけて書こうとしている。 A ：片仮名の終筆と送筆に気をつけて、積極的に書こうとしている。 支援 ：教科書のイラストなどを使って、片仮名の言葉を書く活動に関心をもつようはたらきかける。
6・7月 (5時間)	2	14・15	3 かん字の学しゅう ①書きじゅん	○書き順の原則(横画から書く、長い縦画から書く)を理解することができる。 ○書き順に従い、文字を正しく書くことができる。 ○似ている部分のある文字を、書き順に従い、正しく書くことができる。	○『十』『上』『土』『点』の書き順を声に出しながら空書する。 ○『十』『上』『土』『点』を鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、「書き順の原則」について話し合う。 ○正しい書き順で書く利点を確かめる。 ○『中』『月』の原則を確かめながら練習する。 ○これまでに学習した文字についても、書き順の原則にあてはめて書く。	アイウ	B ：書き順の原則を理解している。書き順の原則に従って、正しく書いている。 A ：それぞれの文字の書き順の違いについて、よく理解している。 書き順の原則に従って、字形を整えて書いている。 支援 ：教科書の脚注や巻末漢字表などを使って、正しい書き順について理解を促す。 書き順を声に出しながら書けるようにする。	B ：書き順の原則について考えている。 A ：書き順の原則や字形について、よく考えている。 支援 ：色分け文字などを使って、正しい書き順が確かめられるようにする。	B ：他の文字でも、書き順の原則に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：常に書き順の原則に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 ：書き順を色分けした文字などを使って、書き順に原則があることに気づくようにはたらきかける。
	3	16～19	②画の方こう 文字をくらべて話し合おう	○「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いを理解することができる。 ○「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて、正しく書くことができる。	○『人』『大』『月』『千』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、「左はらいの方向」の違いを話し合う。 ○『自分』『星空』『えい画』『見学』を空書きしてから鉛筆で試書し、教材文字と比べて話し合う。 ○画の方向の違いに気をつけて、鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとも書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○学習した文字を使った言葉を書く。	アイウ	B ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて理解している。 「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて、正しく書いている。 A ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて、よく理解している。 「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：水書用紙などを使って、画の方向の違いを比べてみるができるようにする。	B ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて考えている。 A ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて、よく考えている。 支援 ：拡大文字などを使って、画の方向の違いについて確かめられるようにする。	B ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも画の方向に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に、画の方向の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：教科書の図版を使って、画の方向について関心を高めるよう促す。 他の文字でも、画の方向の違いがあることに気づくようにはたらきかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9・10月 (6時間)	3	20・21	③画の長さ、画と画との間	○画の長さの違いと、画と画との間のとり方を理解することができる。 ○画の長さの違いと、画と画との間のとり方に気をつけて、正しく書くことができる。	○『山』『青』『生』『出』『名』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて「画の長さ」の違いを話し合う。 ○画の長さに気をつけて、『山』『青』『生』『出』『名』を鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○『貝』『春』『思』『形』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、「画と画との間のとり方」について話し合う。 ○画と画との間のあけ方に気をつけて『春』『思』『形』を練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○学習した文字を使った言葉を書く。	アイウ	B :画の長さの違いについて理解している。 画の長さに気をつけて書いている。 画と画との間のとり方について理解している。 画と画との間のとり方に気をつけて書いている。 A :画の長さの違いについて、よく理解している。 画の長さに気をつけて、字形を整えて書いている。 画と画との間のとり方について、よく理解している。 画と画との間のとり方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 :拡大文字などを使って、画の長さや画と画との間のとり方を比べてみる ことができるようにする。 どの画を長く書くのかを具体的に説明する。 画と画との間のとり方について、具体的に説明する。	B :画の長さの違いについて考えている。 画と画との間のとり方について考えている。 A :画の長さの違いについて、よく考えている。 画と画との間のとり方について、よく考えている。 支援 :拡大文字などを使って、画の長さや画と画との間のとり方について確かめられるようにする。	B :他の文字でも画の長さに気をつけて書こうとする意識をもっている。 他の文字でも画と画との間のとり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A :常に画の長さの違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 常に画と画との間のとり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 :学習した以外の文字でも、画の長さ、画と画との間のとり方に気をつけて書くよう、仲間の漢字を示して意識づける。
	3	22・23	④画のつき方と交わり方	○画のつき方と交わり方を理解することができる。 ○画のつき方と交わり方に気をつけて、正しく書くことができる。	○『作』『文』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて「画のつき方」「画の交わり方」の違いを話し合う。 ○画のつき方と交わり方を理解する。 ○画のつき方と交わり方に気をつけて練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○学習した文字を使った言葉を書く。	アイウ	B :画のつき方と交わり方について理解している。 画のつき方と交わり方に気をつけて書いている。 A :画のつき方と交わり方について、よく理解している。 正しい画のつき方と交わり方で、字形を整えて書いている。 支援 :拡大文字などを使って、画と画とがつくところ・交わる場所や、画のつき方と交わり方について確かめられるようにする。	B :画のつき方と交わり方について考えている。 A :画のつき方と交わり方について、よく考えている。 支援 :拡大文字などを使って、画のつき方と交わり方が確かめられるようにする。	B :他の文字でも、画のつき方と交わり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A :常に画のつき方と交わり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 学習した以外の文字でも、画のつき方と交わり方に気をつけて書くよう、仲間の漢字を示して意識づける。
10・11月 (3時間)	2	24・25	⑥文字の中心	○文字の中心(縦画が中心にある文字、書き出しが中心の文字など)を理解することができる。 ○文字の中心に気をつけて、正しく書くことができる。 ○学習したことを生かして、字形を整えて丁寧に書くことができる。	○『水』『光』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○『水』『光』の中心をなぞり、文字の中心を理解する。 ○文字の中心に気をつけて練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○文字の中心に気をつけて、学習した文字を使った言葉や教科書の文章を書く。 ○これまで学習したことを確認してから教材文字を書く。	アイウ	B :文字の中心について理解している。 文字の中心に気をつけて、正しく書いている。 A :文字の中心について、よく理解している。 文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 :文字の中心がわかりやすい文字を例にあげて理解を促す。 中心線があるます目を書くことで、自分の書いた文字について中心を確かめられるようにする。	B :文字の中心について考えている。 A :文字の中心について、よく考えている。 支援 :拡大文字などを使って、文字の中心にあたる部分について確かめられるようにする。	B :文字の中心に気をつけて書いている。 他の書写場面でも、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A :文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。 常に文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 :フェルトペンの文字や拡大文字などを使って、文字の中心になる部分を指でなぞるようにする。 書写の授業以外でも、文字の中心に気をつけて書くよう意識づける。
	1	26	【レッツ・トライ】 ②よこ書きの書き方 一算数のノート	○横書きの書き方や、数字の書き順と字形に気をつけて書くことができる。 ○他教科の学習や日常生活のなかで、横書きの書き方に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○教科書の挿絵を利用して、横書きにする場合、拗音、促音、句読点は「3のへや」に書くことを確かめる。 ○書く位置に気をつけて、教科書の文と数字を書く。	アイウ	B :横書きの書き方を理解して書いている。 A :横書きの書き方を、よく理解して書いている。 支援 :数字の書き方についても、誤りやすい例をあげながら、正しい字形を確かめられるようにする。 十字線を入れたます目用紙を使って、正しい位置を確かめられるようにする。	B :縦書きの書き方との違いについて考えている。 A :縦書きの書き方との違いについて、よく考えている。 支援 :教科書を参照して、横書きの場合の拗音、促音などの正しい位置が確かめられるようにする。	B :横書きの書き方について知り、学習への意欲をもっている。他の言葉でも、横書きの書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A :横書きの書き方について知り、積極的に学習に取り組もうとしている。 常に横書きの書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 :拗音、促音、句読点は、ます目の中のどの位置に書くのか、確かめられるようにする。 学習した以外の文字でも、横書きの書き方に気をつけて書く意欲をもつことができる。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
11・12月 (5時間)	2	27	⑥年がじょうと書きぞめ ●年がじょう	○年賀状の書き方を理解し、年賀状を書こうとする意欲をもつことができる。 ○字形や文字の中心に気をつけて、年賀状を丁寧に書くことができる。	○はがきの書き方を知る。 ○基準に気をつけて、はがきサイズの練習用紙に練習する。 ○文字を書く位置や大きさについて話し合う。 ○学習したことを生かして、年賀状を丁寧に書く。	アイウ	B ：年賀状の書き方について理解している。 年賀状の書き方を理解して書いている。 字形や中心について理解している。 字形や中心に気をつけて書いている。 A ：年賀状の書き方について、よく理解している。 字形や中心について、よく理解している。 年賀状の書き方をよく理解して書いている。 中心に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：相手に確実に届けるために正確に書くことを助言する。 行の中心が揃えにくい場合は、鉛筆で中心線を薄く書き、後で消すようにはたらきかける。	B ：年賀状の書き方について考えている。 字形や中心について考えている。 A ：年賀状の書き方について、よく考えている。 字形や中心について、よく考えている。 支援 ：教科書の教材を参照しながら、はがきの基本的な書き方について確認できるようにする。	B ：年賀状を書く活動に、積極的に取り組もうとしている。 字形や中心に気をつけて書こうとしている。 書写の授業以外でも、字形や中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：年賀状を書く活動に、すすんで取り組もうとしている。 中心に気をつけて、字形を整えて丁寧に書こうとしている。 常に書写の授業以外でも、字形や中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：これまで学習してきた、字形と中心に気をつけて取り組むようはたらきかける。 ふだんの生活の中でも気をつけて書くよう意識づける。
			●書きぞめ	○句読点の書き方のきまりを確認したり、フェルトペンの持ち方を理解したりして、書きぞめを書こうとする意欲をもつことができる。 ○鉛筆やフェルトペンを正しく持ち、字形や文字の中心に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○「お正月のできごと」の文章を鉛筆で書く。 ○段落の文頭と句読点の書き方のきまりを確かめる。 ○姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて練習する。 ○『元気な子』を空書してから鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて「文字の形」や「文字の中心」について話し合う。 ○フェルトペンを正しく持ち、字形や中心に気をつけて練習する。 ○まとも書きをして試書と比べて自己評価する。 ○他にもお正月の言葉を書く。	アイウ	B ：書き出しの位置や、句読点を書く位置、字形や文字の中心について理解している。 書き出しの位置や、句読点を書く位置に気をつけて正しく書いている。 字形や文字の中心に気をつけて正しく書いている。 A ：書き出しの位置や、句読点を書く位置、字形や文字の中心について、よく理解している。 書き出しの位置や、句読点を書く位置を正しく書いている。 文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：自分が書いた文字について、正しい文字と比べてみるができるようになる。 今までの学習を想起しながら、字形や文字の中心に気をつけるよう呼びかける。	B ：書き出しの位置や、句読点を書く位置について考えている。 字形や文字の中心について考えている。 A ：書き出しの位置や、句読点について、よく考えている。 字形や文字の中心について、よく考えている。 支援 ：今までに学習した内容を確かめられるようにする。	B ：書きぞめに対して、意欲的に取り組もうとしている。 字形や文字の中心に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに対して、積極的に取り組もうとしている。 文字の中心に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：今までの学習を想起しながら、苦手とする部分について重点的に取り組むようはたらきかける。 学習した以外の文字でも気をつけて書くよう意識づける。
1・2月 (8時間)	3	30・31	⑦文字の形	○文字の外形の違いを理解することができる。 ○文字の外形に気をつけて、正しく書くことができる。	○『自』『工』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○『自』『工』の文字のまわりの点線を鉛筆で囲み、外形を理解する。 ○文字の外形に気をつけて練習する。 ○他の文字でも外形に気をつけて書く。	アイ	B ：文字の外形の違いについて理解している。 文字の外形に気をつけて書いている。 A ：文字の外形の違いについてよく理解している。 文字の外形の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：おおよその形を身近なものにたとえて、どのような形かを具体的に説明する。 外形が書いてある練習用紙の中に文字を書き、おおよその形を確かめられるようにする。	B ：文字の外形の違いについて考えている。 A ：文字の外形の違いについて、よく考えている。 支援 ：文字のまわりを鉛筆で囲み、おおよそどのような形になるか確かめられるようにする。	B ：文字の外形の違いに気づき、学習への意欲をもっている。 他の文字でも文字の形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：文字の外形の違いに気づき、進んで学習に取り組んでいる。 常に文字の形の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：おおよその形を身近なものにたとえて、外形の違いが確かめられるようにする。 他の文字でも、文字の形の違いがあることに気づくようにはたらきかける。
			【書いてつたえおおう】 しょうたいじょう、本のしょうかいカードを書こう	○学習したことを生かして、筆記具や用紙を選び、丁寧に書くことができる。 ○これまで学習したことを生かして、書き順や字形に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○招待状に書く内容を確認し、縦書き・横書きの形式や用紙などを選ぶ。 ○姿勢や筆記具の持ち方、字形に気をつけて書く。 ○友達が書いた招待状のよさを見つけて、伝え合う。(招待状) ○本の紹介カードに書く内容をまとめる。 ○姿勢や筆記具の持ち方、字形に気をつけて書く。 ○友達が書いた本の紹介カードのよさを見つけて、メッセージを書く。(本の紹介カード)	アイウ	B ：横書きのカードの書き方について理解している。 本の紹介カードの書き方について理解している。 字形や書き順に気をつけて書いている。 A ：横書きのカードの書き方について、よく理解している。 本の紹介カードの書き方について、よく理解している。 字形や書き順に気をつけて、丁寧に書いている。 支援 ：教科書の作例を提示するなどして、書き方について理解を促す。 巻末漢字表などを活用し、字形や書き順を確かめられる。	B ：招待状の書き方について考えている。 本の紹介カードの書き方について考えている。 A ：招待状の書き方について、よく考えている。 本の紹介カードの書き方について、よく考えている。 支援 ：教科書の作例を提示するなどして、書き方について考えるよう促す。	B ：他の学習場面においても、相手のことを考えて丁寧に書く意識をもっている。 A ：常に相手のことを考えて丁寧に書く意識をもっている。 支援 ：招待状を贈りたい相手と、伝える内容について考えることができるよう、具体例をもとに促す。 他の学習場面においても、字形に気をつけて丁寧に書くよう意識づける。
			【知りたい文字のせかい】 何の形からできたかん字かな	○物の形からできた漢字があることを知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○教科書に提示された絵を見て、どんな漢字ができあがるのか予想して、話し合う。 ○それぞれの文字を書くときの留意点(方向、長さなど)を確認し、鉛筆で書く。 ○書いたものを紹介し合い、発表する。	アイウ	B ：漢字の成り立ちについて理解している。 学習した漢字について、字形に気をつけて書いている。 A ：漢字の成り立ちについて、よく理解している。 学習した漢字について、字形を整えて書いている。 支援 ：漢字の成り立ちを視覚的にとらえられるようにする。 今までの学習を生かして、丁寧に書くように助言する。	B ：漢字の成り立ちについて考えている。 A ：漢字の成り立ちについて、よく考えている。 支援 ：教科書の成り立ちクイズに取り組むなど、成り立ちについて考えるよう支援する。	B ：漢字の成り立ちに対する興味・関心をもって書こうとしている。 他の漢字についても、その成り立ちについて関心をもっている。 A ：漢字の成り立ちに対する興味・関心を持ち、積極的に書こうとしている。 他の漢字についても、その成り立ちについて関心をもって調べている。 支援 ：教科書の図版を拡大提示し、関心を高める。 他の漢字についても、成り立ちについて関心が高まるようにはたらきかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2・3月 (3時間)	2	35・36	学しゅうの まとめ	○1年間の書写学習を振り返り、学習した内容を確認することができる。 ○学習したことを生かして、時間割りの文字を正しく書くことができる。 ○字形や書く位置に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○「ふりかえって みよう」を見て、学習したことを確かめる。 ○字形に気をつけて時間割りを書く。 ○行頭や句読点の位置に気をつけて、『かさこじぞう』の一部を書く。	アイウ	B : 字形や書く位置について理解している。 字形や書く位置に気をつけて、丁寧に書いている。 A : 字形や書く位置について、よく理解している。 書く位置に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 : 字形や書く位置について確かめられるようはたらきかける。 字形や書く位置について確かめられるようはたらきかける。	B : 今まで学習した内容について考えている。 A : 今まで学習した内容について、よく考えている。 支援 : 今まで学習した内容を、教科書を見ながら想起するようはたらきかける。	B : 学習したことを生かして、意欲的に書こうとしている。 他の文章でも、書く位置に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A : 学習したことを生かして、積極的に書こうとしている。 常に書く位置に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 : 今まで学習した内容について、グループで話し合うよう促す。 学習した以外の文章でも、書く位置に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。
	1	37～39	【かん字の ひょう】 二年生で 学しゅうする かん字 一年生で 学しゅうした かん字	○2年生で学習した内容（書き順、画の方向、画の長さ、画と画との間、画のつき方と交わり方、文字の中心、文字の形）を確認することができる。 ○1年生で学習した漢字の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）や送筆（「おれ」「まがり」「そり」）などの書き方を確かめることができる。 ○1年生で学習した字形の整え方や書き順などを確かめることができる。	○書き順のきまりと、字形の整え方を確かめる。 ○漢字の表から探した漢字について、画の方向、画の長さ、画間、画のつき方と交わり方、文字の中心、外形に気をつけて練習する。 ○学習した漢字を使って言葉を書く。	アイウ	B : 始筆・送筆・終筆の書き方や画の長さ・方向について理解している。 始筆・送筆・終筆などの違いによって、漢字の仲間さがしをしている。 A : 始筆・送筆・終筆の書き方や画の長さ・方向、字形について、よく理解している。 始筆・送筆・終筆などの違いによって、漢字を正しくグループ分けしている。 支援 : 拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向、字形などを比べてみるができるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	B : 始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向について考えている。 A : 始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向、字形の良さあしを考えている。 支援 : 拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の正しい書き方や字形などが確かめられるようにする。	B : 始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向などに気をつけて確かめようとしている。 他の文字でも始筆・送筆・終筆の書き方や画の長さ・方向、字形に気をつけようとする意識をもっている。 A : 始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向などに気をつけて、意欲的に書こうとしている。 常に始筆・送筆・終筆の書き方や画の長さ・方向、字形に気をつけようとする意識をもっている。 支援 : 拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の書き方などに気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、気をつけるよう意識づける。
	適時	40	【ひらがなの ひょう・かたかなの ひょう】	○平仮名・片仮名の書き順や字形、拗音、促音、長音などの書きまわりを確認することができる。 ○平仮名・片仮名の言葉を探す活動に、意欲的に取り組むことができる。	○「ひらがなの ひょう」「かたかなの ひょう」を見て、書き順や字形を確かめる。 ○長音、拗音、促音、句読点、「かぎ」の書きまわりを確かめる。 ○教科書のイラストを参考にしながら、片仮名の言葉を探して書く。	アイウ	B : 平仮名と片仮名の筆順や字形について理解している。 A : 平仮名と片仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援 : ふだん、字形が整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。	B : 平仮名と片仮名の字形や筆順について考えている。 A : 平仮名と片仮名の字形や筆順について、よく考えている。 支援 : 間違えやすい字形について、重点的に確かめられるように呼びかける。	B : 平仮名と片仮名の筆順や字形を確かめている。 片仮名の言葉を探している。 他の片仮名でも筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A : 平仮名と片仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。 片仮名の言葉を、積極的に探している。 常に筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 : 間違えやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。
	適時	41	【はってん】 三年生から 毛ひつの 学しゅうが はじまるよ。	○3年生から始まる毛筆学習について、関心を高めることができる。	○3年生の教科書を用意して、これから行う毛筆学習について、用具の説明などを行う。 ○班で1セット程度、毛筆用具が準備できれば、筆で自由な線を書く活動を行う。	アイウ			B : 3年生で学習する毛筆学習について、説明をよく聞いている。 A : 3年生で学習する毛筆学習について、説明をよく聞き、質問をしている。 支援 : 筆記具の違いに気づくよう、書き比べて確かめられるようにする。